



JAPANESE B – HIGHER LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS B – NIVEAU SUPÉRIEUR – ÉPREUVE 1
JAPONÉS B – NIVEL SUPERIOR – PRUEBA 1

Monday 17 May 2004 (morning)
Lundi 17 mai 2004 (matin)
Lunes 17 de mayo de 2004 (mañana)

1 h 30 m

TEXT BOOKLET – INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this booklet until instructed to do so.
- This booklet contains all of the texts required for Paper 1.
- Answer the questions in the Question and Answer Booklet provided.

LIVRET DE TEXTES – INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N'ouvrez pas ce livret avant d'y être autorisé(e).
- Ce livret contient tous les textes nécessaires à l'épreuve 1.
- Répondez à toutes les questions dans le livret de questions et réponses fourni.

CUADERNO DE TEXTOS – INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra este cuaderno hasta que se lo autoricen.
- Este cuaderno contiene todos los textos para la Prueba 1.
- Conteste todas las preguntas en el cuaderno de preguntas y respuestas.

セクション A

問題 A



スーパー床掃除ロボット

世界初の「エレベーター連動掃除ロボットシステム」が実用化されました。人の手を借りないでエレベーターに乗って各階に移動し、床を掃除するロボットです。

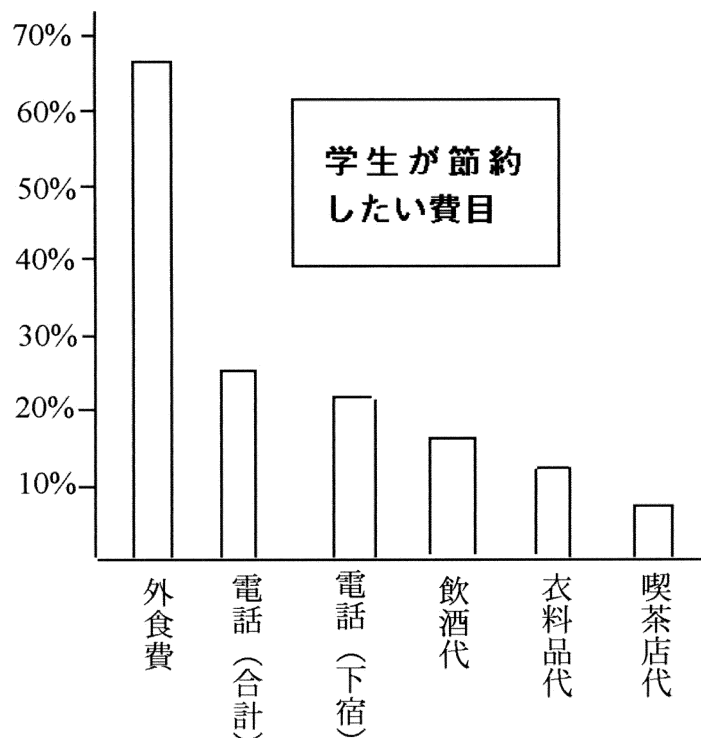
開発したのは、富士重工業と住友商事です。無人掃除ロボットは、決められた時間になると、しまっている場所から自動的に出て、掃除をした後、エレベーターに乗ります。ビルの各階に着くと床をきれいにし、また元の場所までもどります。

ロボットはエレベーターのボタンを押すかわりに、エレベーターと光伝送装置で通信し、ドアの開け閉めや次の行き先階を指示して、乗り降りします。

ロボットは1回の充電で約3時間作業ができます。1時間あたり、たたみになおすと千枚分にあたる広さをきれいにする能力があります。また、本体に取り付けられたセンサーで障害物をよけ、汚れやすい場所などでは、ゆっくりと動いてていねいに掃除をします。

問題 B

学生、アパート生活 1 か月 134,000 円



昨年、日本全国の大学生を対象に生活調査が行われた。調査の結果、1か月の生活費は、アパートやマンションに住む学生が平均 134,000 円、学生寮^{りょう}に住む学生が 102,000 円だということが分かった。アパート・マンションの場合は、このうち住居費が 56,000 円で、学生寮の場合は 19,000 円だった。一方、自宅から通う学生は住居費がかからないため、生活費は 61,000 円だった。

節約したいものとしては、69% の学生が外食費をあげ、電話代の 23% が続く。1か月の電話代平均 7860 円のうち、7030 円までが携帯電話代^{けいたい}で、学生の 54% が自分で払っている。電話代は、自宅以外に住む女子が最も多く、月 8920 円に上った。

出費に対して、学生達の収入は月平均 102,000 円で、アパートに住む学生は 139,000 円、寮生は 108,000 円。これに対して自宅から通う学生は 65,000 円だった。そのうち親から送られる金額は、アパートやマンションに住む学生が月 100,000 円、寮に住む学生が 50,000 円。自宅の学生は 25,000 円のこづかいをもらっていた。

また、アルバイト代は月平均 28,000 円で、5 年連続して減っている。不況でアルバイトの数も減り、時給も下がっている。アルバイトをしている学生の数も 10 年前より 10% 以上も減り、74% になっている。

アルバイトもやらないし、勉強もあまりしないのに、外食や電話代にお金を使いすぎている学生が増えているのではないだろうか。

しかし、そのため、狂ったりすることはまったくなかった。進みすぎもせず、おくれもせず、正確な時刻を、忠実に知らせつづけてきたのだ。

その時、ラジオが時報の音をたてた。K氏は首をかしげた。

「おかしいぞ。時報が狂うとは」

彼にとつて、時計のほうを疑うのは、考えられないことだった。だが、ダイヤルをまわし、ほかの局を調べ、時報が正しいのを知って、あわてた。

25 もはや、切符を買っておいたバスの、発車時刻にまにあわなくなっている。彼は時計に文句を言った。

「おい。なんということをしてくれたのだ。これだけ大切に扱ってやっているのに」

しかし、どうしようもなかった。K氏は旅行を中止し、散歩にでかけた。そして、ついでに時計店に立ち寄った。

「変なんだ。おくれはじめた。せっかくの週末が、ふいになっちゃった」

30 「しかし、このあいだ検査をしたばかりですが……」

と、時計店の主人は受けとり、機械をのぞきこんでいたが、ふしぎそうな声で答えた。

「変ですね。どこにも故障なんかありません」

「そんなはずはない」

そのとき、ポケットに入れっぱなしになっていたラジオが、ニュースをしゃべった。

35 〈観光シーズンです。S山へ行くバスが……〉

それを聞きながら、K氏は主張した。

「おかげで、このバスに乗りそなったのだ。たしかに、この時計はどうかしている」
しかし、ニュースはそのさきをこう告げていた。

〈……事故のため、谷へ転落して……〉

問題 C

愛用の時計

星新一

K氏は週末の旅行に出かけるため、用意をととのえていた。服のポケットのなかでは、ラジオが天気予報を告げていた。

〈あすは、よいお天気でしょう……〉

5 楽しいに口笛を吹きながら、K氏はハンケチを出し、腕時計を軽くぬぐった。これは彼のいつもの癖だつた。

癖とはいうものの、頭をかくとか耳をつまむとかいう、意味もない動作とはちがっていた。彼はその時計を大切にしていたのだ。大げさな形容をすれば、愛していたともいえる。

10 K氏がこれを買ってから、五年ほどになる。デパートの時計売場のそばを通ったとき、ガラスのケースのなかに並べられた、たくさんの時計の一つがキラリと光った。ちょうど、女の子にウインクされたような気がした。また、

「あたしを買ってくれない……」

と、やさしく、ささやきかけられたようにも思えた。古代の異国の金貨が、文字盤ばんになっている。たまたま、入社してはじめてのボーナスをもらった日だった。

「よし。買うことにしよう」

15 彼は思わずこうつぶやいた。それ以来、時計はずっと、K氏とともにいる。

K氏は、からだの一部でもあるかのように扱あつかった。彼はまだ若く、自分では定期的な健康診断けんこうしんだんなどを受け気にはならなかったが、時計のほうは定期的に検査けんさに出した。別なのを使うその数日は、彼にとつて、たまらなくさびしい日だった。

セクション B



どうやら、
子供達のほうが先に、
インターネットの可能性に
気づいてしまった。

大人の皆様ふるってご参加ください。

子供達は、インターネットの中に何を見いだしたのか。電子ネットワークを活用することで、これからの教育はどのように変化していくのか。インターネット上に開設した子供達のためのホームページ、「スクールページ」では、その可能性をさまざまな立場から考えるために、「スクールページ・シンポジウム」を開催します。学校の先生をはじめ、教育に興味のある皆様のご参加をお待ちしております。

- 開催日時 2004年6月24日 (木) 午後1時から
- 内容 テーマ 「教育に電子ネットワークをどう活かすか。」
☆ 講演 相磯秀夫 (慶應技術大学大学院教授)
☆ パネルディスカッション 坂本昂 (放送教育開発センター所長)
宮崎緑 (ジャーナリスト)
西川りゅうじん
(マーケティングコンサルタント) ほか
- ☆ 最新の教育ソフトが体験できる展示コーナー
- 参加方法 参加希望者は住所・氏名・年齢・教育への関心・参加を希望する理由を明記の上、郵便ハガキまたはE-mailでご応募ください。
- 締切 2004年5月31日
- お問い合わせ先 スクールページコンテスト事務局
〒106-4953 東京都港区六本木6-15-21
letter@schoolpage.mxd.meshnet.or.jp